

<祈りのために>

「そこで、まず第一に勧めます。願いと祈りと執り成しと感謝とをすべての人々のためにささげなさい。王たちやすべての高官のためにもささげなさい。」

テモテへの手紙（一）2章1～2節

「神の憐れみに対する感謝」を言いあらわしたパウロは、ここで第一に勧めることとしてこう述べています。公の礼拝において、「願いと祈りと執り成しと感謝をすべての人々のためにささげなさい」と。「すべての人々」とありますから、その祈りは自分たちの教会のためばかりでなく、言ってみれば、異教徒や敵対者を含む、この世界のあらゆる人々にも及ばされるものでありましょう。

どうして、すべての人々のために祈るのでしょうか。それは神ご自身がすべての人々の救いを望んでおられるからです。その救いは御子イエス・キリストの十字架によって、人間の罪の贖いがなされ、神と人との間に平和がもたらされたことをさしてます。神はすべての人々がこの福音の真理に応答し、ご自分のもとに立ちかえることを望んでおられるのです。

ところで、すべての人々のために祈ることとありましたが、次に、とりわけ政治をつかさどる「王たちやすべての高官」のためにも祈るように、と勧められています。彼らは人々の生活の上に大きな影響を及ぼす権力を持っています。彼らが正義と公平に立って平和な秩序を社会のうちにもたらすことは、いつの世でも望まれるところですが、ここではそのような支配者たちのために祈るのは「わたしたちが常に信心と品位を保ち、平穏で落ち着いた生活を送るためです。」とするされています。

今日は、わたしたちは政治がその領域をこえて信仰とか思想の領域に入ってくるとき「見張り人」としての役目を果たしていかなければならないのですが、また、同時にこの聖書のみ言葉が示すように、政治を行う人々のために心して祈り続けることも欠かすことが出来ません。また、たとえ教会に敵対する権力者であっても、教会がその権力者のために祈り続けたという歴史があります。そのような場合でも、わたしたちは「悪を善に変えたもう」主のご支配を信じて祈り続けたい。

祈り

主なる神さま。わたしたちの国の政治が正義と公平にかたく立つことが出来ますように。この委員会の働きの上に、一層、お支えとお導きをお祈りいたします。

福井重蔵（明石大久保教会 牧師、近畿中会「教会と国家に関する委員会」委員長）

私にとっての反ヤスクニ教会闘争（2）

鈴木康之（東京中会教師）

1967年から数えると、2017年は反ヤスクニ教会闘争の50年に当たる。この年を迎えたなら、一つの節目として歴史編纂が求められる。しかしもっと求められることは、本件の終結のため結集して闘い続けることこそが重要である。今後、結集をより実質的にする提言が私にはある。旧日基の伝統を継承している以上、私たちはいまだに天皇を神としたことの罪を告白していないから、それを大会で協議・決議することである。

考える一材料として、1974年当時の靖国神社問題特別委員は「靖国神社法案の衆議院強行採決に際して日本基督教会々員各位に訴える」と題して、教会内への呼びかけをした。本法案が衆議院強行採決により、遂に参議院に付託された危機的状況であった。その文面の中にこういうくだりがある。「われわれ日本基督教会は、戦後その歩みを新たにした。それはわれわれが戦時下、世と妥協して神に対して真実なる信仰の告白を貫きえず、国家に対する教会の正しい責任を果たさず、またわが国がアジアの人々の上に限りなく加えた惨禍をとどめ得なかったからである。その悔い改めと反省に立って、われわれは主の御言葉に服従する真実なる告白教会の形成を目指して出発した。云々」。ここで「その悔い改めと反省に立って」と記されるが、これ以前の大会においての「天皇を神とした罪の告白表明文書」は見当たらない。罪責感はもろもろの罪への「悔い改めと反省」という文言に含まれていると理解できるものの、それで罪責告白をしたことにはならないのは当たり前である。もろもろの罪の根源が曖昧なままだと、今後たとえ結集が果たせはしても、いざれ光源を見失うことになると思う。この際、鮮明にしておくことが望ましい。

今日の米軍問題、特に沖縄県におけるオスプレイ配備の問題や、大阪府に見られる日の丸、君が代問題、原発依存の政治の歪んだ経緯、砂川訴訟に象徴される行政と神社宗教の癒着等これらは私たちの反ヤスクニ教会闘争の範疇である。この闘争の範囲が国家政治的乱れの所為で、年と日を追う毎に拡張して行っているのを私たちは目の当たり見る。

世における不義と貪欲の蔓延、それによって嘆かわしきや歯痒さを禁じえぬとはいえ、私たち自身の内にある未解決の罪責については、さらに厳しい視線を向ける必要があるのではないか。貪欲は偶像礼拝であることを、コロサイ人の手紙3章5節、使徒パウロの教えから見て、世が教会と無関係に腐っているとは思えない。教会の偶像礼拝の罪の未解決は、世の腐れにより却ってこの世から告発されている。今日の世の有様は私たちの教会の鏡だ。勿論ここで呆れ果て諦める事はない。むしろ1969年の教会決議に立ち戻ることで基本線を捉え直し、更に一步踏み込んで己を省みることもできるに違いない。それだけ有益な決議をしたのが私たちの教会である。

現在私が研究している韓国教会の牧師孫良源（ソニャンオン）は、大日本帝国支配解放後、当時の韓国政府による国旗に対する敬礼強要問題に直面し、1949年教会総会で協議の末、李承晩大統領に対し抗議をした。また講壇においても、「淫売の毒酒からまだ醒めていないのか」と当時の韓国教会のありようを踏まえて、罪を指摘している。その含意は、当時の韓国政府が偶像崇拜を教会に押しつけてきた危機の指摘に留まらない。かつて神社参拝に与した結果現れた韓国教会の泥酔状態を、白日の下に晒すものでもあった。

孫牧師曰く、「日本を通じて入ってきた淫売の悪魔は、実に巧妙な悪魔同様である。信仰

なき社会を見ても、その精神、その考えが全く日本式であり、教会内でもまさに彼の時代の形式を形の上で変え名前も変えてあるだけのことで、全く一緒である」と、韓国社会の風潮をも含めて教会の責任問題として害悪を叫んでいた。「日本式」という表現に特にひっかかる。そこに潜む偶像崇拜の罪を自覚して、それが幾つもの罪を造成し続けていることを共に見ていたわけである。彼の説教と韓国長老教会が偶像崇拜の罪責告白を巡って教会分裂に至ったという悲劇も重ねて考えると、天皇を神とした偶像崇拜の罪の告白にまだに至っていない私たちの教会は、これまで何を語りどのような教会形成をしてきたのであろうか、と自らを省みる。

他国の諸教会に神社参拝を強要した側の罪を抱える私たちである。被害教会以上の罪責を担っているのだ。真にキリストを首とする教会を目指す自覚がより強烈にあってしかるべきなのが、日本キリスト教会である。加害教会の私たちこそ「淫売の毒酒からまだ醒めていない」ことを知り、素直に天皇を神とした罪を告白するようにしよう。1969年の教会決議はそのための門をも開いている（了）。

<ヤスクニ・ニュース>

「(三笠宮) 寛仁」葬儀への抗議

7月2日、日本キリスト教協議会（NCC）靖国神社問題委員会は、内閣総理大臣と宮内庁長官に、「(三笠宮) 寛仁」葬儀は政教分離違反である。その葬儀や墓の建造費用が、2012年度の国の一般会計予備費から支出することが閣議で決定したことは、憲法 89 条に違反している。また「葬場の儀」は「斂葬の儀」の一部であり、ここに「三権の長」と共に外国人大使らが参列したことは、憲法第 20 条に反しているとして抗議した。

閣僚の靖国神社参拝への抗議

日本キリスト教協議会（NCC）靖国神社問題委員会は、2009 年民主党政権以来初めて閣僚による松原仁国家公安委員長兼拉致問題担当大臣と羽田雄一郎国土交通大臣の8月15日の靖国神社参拝したこと、また野田佳彦内閣総理大臣が閣僚の参拝を認めたことに抗議した。日本同盟基督教団「教会と国家」委員会は、羽田雄一郎大臣に対して、羽田大臣がキリスト者であるならば、靖国神社を参拝し「英霊」に頭を下げることは、十戒の第一・第二戒に背く偶像礼拝に他ならないという抗議をも加えた抗議文を送った。

天皇への謝罪要求、何が間違っているのか

[朝鮮日報コラム・記者手帳]（朝鮮日報日本語版）から

日本の野田佳彦首相が李明博（イ・ミョンバク）大統領に送った「抗議の書簡」（親書）が、両国の対立をさらにおおっている。野田首相が李大統領に書簡を送った表面的な理由は、李大統領による独島（日本名：竹島）訪問だが、本当の理由は李大統領が天皇を批判したことだ。日本について詳しい Q 氏は「韓国による日王（天皇）批判に対応しなければ、これ以上首相の座を維持できないからだろう」と述べた。

李大統領は今年 14 日、韓国教員大学で「(日王が) 『痛惜の念』などの単語を持ってくるだけなら、来る必要はない」と発言した。日本の政治家たちはこの発言が報じられると

同時に「礼儀知らずだ」「無礼だ」などと先を争って批判した。野田内閣が追加の「報復措置」に着手したのも、この天皇王批判が大きく作用している。

韓国史から見ると、今上天皇の父親、昭和天皇は1926年の即位後、日本が朝鮮半島を統治した時代に民族全体を迫害し、弾圧した人物で、太平洋戦争では韓国の若い男性を銃の盾とし、若い女性を日本軍の性的奴隷とした、まさに「特別A級戦犯」だ。今なお韓国民族を苦しめる南北分断も、昭和天皇が統治していた日帝時代の統治が原因になっている。その日本の王室に対し「韓国に来たければ、韓国の独立運動家が全てこの世を去る前に、心から謝罪せよ」と求めたわけだが、これはある意味当然の要求だ。李大統領による発言は、時期的には問題があったかもしれないが、決して言うてはならない言葉ではない。

これまで韓国の大統領や政治家は、天皇を神聖視する日本の特殊な状況を意識し、可能な限り天皇に関する発言を公の席では控えてきた。今考えれば、こちらの方がおかしいことだ。米国も同じだ。天皇が日本で占める立場を考慮し、戦犯の天皇には戦争の責任を問わず、日本の王室の存続を認めたのだ。

このような背景から、昭和-今上天皇は国際社会の要求があるたびに、歴史に対する遺憾の意を少しずつ表明することで、責任を回避することができた。1989年に即位した今上天皇は「平成」を年号として使用している。平成という言葉は「世の中と日本内外の平和を願う」という意味だ。このように日本の王室が訴える平和を実現するには、まずは心から過ちを認め、これに対する批判を受け入れる勇気を持たなければならない。西ドイツのブラント首相（当時）は1970年12月、ポーランドのワルシャワにあるユダヤ人犠牲者慰霊碑前で膝をついて謝罪した。日本もこの事実を思い起こすべきだ。天皇は決して神聖不可侵ではない。今上天皇は手遅れになる前に、ブラント首相のように「膝をついて謝罪する写真」を歴史に残すべきだ。 李河遠（イ・ハウオン）政治部記者 8月20日

「慰安婦」機密文書を発見

過去、日本が数多くの朝鮮女性を性奴隷として連行した犯罪的蛮行が、日本軍当局によるものであることを立証する機密文書が発見された。16日、南朝鮮の「韓日文化研究所」のキム・ムンギル所長が日本防衛省防衛研究所史料室で、最近発見した文書を公開。「機密文書118号」と言われる文書には、1942年6月13日、当時日本陸軍相副官が日本陸軍台湾軍参謀長に送ったものだという。これには「日本陸軍台湾軍参謀長の『特種慰安婦50人が台湾に到着したが、人員が不足する』との要請に応じてオカ部隊引率証の発給を受けて慰安婦20人を増援、派遣する」「これから慰安婦の補充が必要な場合、このように処理して欲しい」と明記されている。日本の性奴隷犯罪の内幕を暴露する文書の発見を受けて、南朝鮮のメディアは、これまで「慰安所運営に軍が関与した事実がない」と否認してきた日本の主張が嘘であるということが明らかになった、と報じた。「朝鮮新報8月21日」

<東京中会ヤスクニ問題特別委員会からのお知らせ>

標記委員会は、過ぐる8月13日（月）に第1回靖国問題学習会を開催し、「原発を問う教会、原発から問われる教会」のテーマで4人の講師による発題とディスカッションの時を持ちました。現在、記録を作成中ですが、併せて広くこの問題に関する投稿を募集し、冊子にまとめたいと願っております。投稿ご希望の方は、東京告白教会の小塩海平（koshio@nodai.ac.jp）までご連絡ください。締め切りは10月末です。

692号 ヤスクニ通信 2012年9月9日
発行 日本キリスト教会靖国神社問題特別委員会
発行人 加藤正勝 編集人 川越弘
印刷・発行 栗田英昭（多摩ニュータウン
永山伝道所）〒206-0025 東京都多摩市永山
1-16-11 TEL&FAX 042-376-9514